

平成 29 年度業務実績報告書

平成 30 年 6 月

地方独立行政法人静岡市立静岡病院

目 次

1 法人及び病院の概要	1
2 計画に係る実績及び自己評価	
（１）全体的な実績（主な取組、成果、課題等）の状況	5
① 総括	
② 大項目ごとの状況	
（２）小項目ごとの実績及び法人自己評価	
第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	
1 地域医療を支える要としての静岡病院	8
（１）広大な市域を支える要としての活動	
（２）救急医療	
（３）高度医療	
（４）政策医療	
（５）災害時医療	
2 医療の質の向上と人材の確保	21
（１）総合的な診療とチーム医療の実施	
（２）先進医療機器や設備の整備	
（３）医療職の確保、知識の習得、技術の向上	
（４）臨床研修医の育成	
（５）調査・研究、治験の実施	
3 医療の安全性と信頼性の向上	31
（１）十分な情報提供と適切な取扱い	
（２）医療安全管理等の徹底	
（３）市民への積極的な広報	
4 利用しやすく快適な病院づくり	38

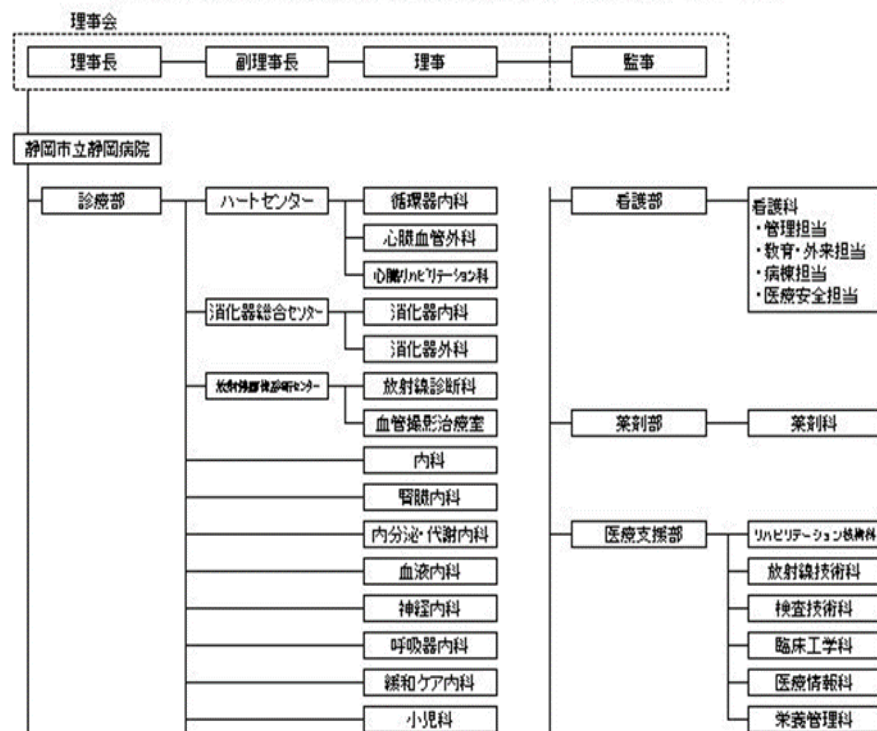
(1) 患者第一の病院づくり	
(2) 患者ニーズに応じた医療・病院環境の提供	
5 市及び医療関係機関との連携、国内外医療関係機関との交流	42
(1) 市立病院としての市との連携	
(2) 医療・保健・福祉・介護関係機関との連携	
(3) 国内外医療関係機関との交流	
第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	
1 働きやすい職場環境と職員のやりがいづくり	46
(1) 働きやすい職場環境の整備	
(2) 職員のやりがいと満足度の向上	
2 業務運営体制の構築	50
(1) 医療環境の変化に迅速・柔軟に対応できる体制の構築	
(2) 市民との連携・協働による病院運営の実施	
(3) 外部評価等の活用	
(4) 事務部門の強化	
(5) 法令の遵守等	
第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	
1 健全経営の維持	59
(1) 安定的な経営の維持	
(2) 収入の確保、費用の節減	
(3) 計画的な投資の実施	
第4 その他業務運営に関する重要事項に係る目標を達成するためとるべき措置	
1 地球環境に配慮した病院運営	67
第5 予算、収支計画及び資金計画	69
第6 その他市の規則で定める業務運営に関する事項	69
1 施設及び整備に関する計画	

1 法人及び病院の概要

1 現況（平成 30 年 3 月 31 日現在）

- (1) 法人名 地方独立行政法人静岡市立静岡病院
 (2) 所在地 静岡市葵区追手町 10 番 93 号
 (3) 設立年月日 平成 28 年 4 月 1 日
 (4) 組織図

地方独立行政法人静岡市立静岡病院組織図（平成29年4月1日）



(5) 役員の状況

役職	氏名	備考
理事長	宮下 正	病院長を兼務
副理事長	上松 憲之	
理事	居城 舜子	
理事	江崎 和明	
理事	田中 孝将	
理事	千原 幸司	
理事	小野寺知哉	副病院長を兼務
理事	脇 昌子	副病院長を兼務
理事	山崎 文郎	副病院長を兼務
監事	興津 哲雄	弁護士
監事	山田 博久	公認会計士

(6) 設置・運営する病院 (平成 29 年 3 月 31 日時点)

病院名	静岡市立静岡病院
所在地	静岡市葵区追手町 10 番 93 号
理念	開かれた病院として、市民に温かく、質の高い医療を提供し、福祉の増進を図ります。

主な役割 及び機能	地域医療支援病院 臨床研修病院 救急告示病院 第一種感染症指定医療機関 災害拠点病院 地域がん診療連携拠点病院 エイズ中核拠点病院 地域肝疾患診療連携拠点病院 地域周産期母子医療センター 日本医療機能評価機構認定病院
診療科目	内科、腎臓内科、内分泌・代謝内科、血液内科、神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、緩和ケア内科、小児科、精神科、外科、消化器外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、頭頸部外科、リハビリテーション科、放射線診断科、放射線治療科、麻酔科、救急科、歯科口腔外科及び病理診断科 (計 31 科目)
許可 病床数	506 床 (感染症病床「一類 2 床、二類 4 床」を含む)

沿革	明治 2 年 追手町四ツ足御門外に藩立駿府病院を開設 明治 9 年 公立静岡病院として屋形町で開院（県立） 明治 15 年 県立から郡立（有度・安倍郡）に移管 明治 22 年 静岡市制施行に伴い静岡市に移管 明治 38 年 市立静岡病院と改称 昭和 20 年 戦災により焼失 昭和 21 年 隣保館（巴町 5 9 番地）を改築、仮病院とする 昭和 26 年 追手町 1 0 番 9 3 号（現在地）に移転 昭和 49 年 本館（旧東館）竣工 昭和 60 年 病院建設工事施工（4 か年継続事業） 昭和 62 年 第 1 期西館高層棟完成 平成元年 第 2 期低層棟、立体駐車場、東館改修工事完成 平成 2 年 オープンシステム（開放型病院）実施 平成 3 年 心電図伝送システム導入 平成 7 年 オーダリングシステム稼働 平成 15 年 新静岡市にて開設 平成 15 年 日本医療機能評価機構の病院機能評価認定 審査に合格 平成 15 年 地域医療支援室を設置 平成 18 年 地域医療支援病院の承認を取得 平成 19 年 地域がん診療連携拠点病院の指定 平成 19 年 肝疾患診療連携拠点病院の指定 平成 20 年 東館竣工 平成 20 年 電子カルテシステム稼働
沿革	平成 20 年 日本医療機能評価機構の病院機能評価認定更新 (Ver.5) 平成 21 年 DPC 対象病院 平成 22 年 病院専用駐車場竣工 平成 25 年 ハイブリット手術室稼働 平成 25 年 内視鏡下手術用ロボット（ダ・ヴィンチ）稼働 平成 25 年 日本医療機能評価機構の病院機能評価認定更新 (Ver.1.0) 平成 25 年 災害拠点病院の指定 平成 26 年 経カテーテル大動脈弁置換術開始 平成 28 年 地方独立行政法人としてスタート 平成 29 年 PET/CT 稼働
(7) 職員数 844 名（平成 30 年 3 月 31 日現在） （内訳）医師 153 名 看護師 476 名 医療技術員 148 名（うち派遣職員 2 名） 事務職 67 名（うち派遣職員 31 名）	

2 静岡市立静岡病院の基本的な目標等

中期目標の前文

静岡市立静岡病院の歴史は、明治2年開設の藩立病院から始まり、以来、約150年に渡って、安心・安全な市民生活を支える貴重な医療提供者としての役割を果たしてきた。

今日では、「開かれた病院として、市民に温かく、質の高い医療を提供し、福祉の増進を図る」を基本理念として掲げ、「患者さんを主体とし、患者さんにとって最善の全人的医療の実践」や「静岡市の基幹病院として、高度専門医療を提供し、その向上を常に図る」などを基本方針として医療を提供している。

一方で、医療を取り巻く環境は、医療職等の人材確保難、医療技術の高度化、複雑化、また、いわゆる団塊の世代が後期高齢者となる2025年に向けた医療提供体制の改革など、その厳しさや変化の度合いが増している。

このような状況下での病院経営は、環境の変化に即したスピード感ある対応が必要となるが、従前の「地方公営企業法の一部適用」という経営形態では、雇用における制約など、その対応に限界がある。

そのため、静岡病院の経営形態を地方独立行政法人に移行させ、より現場に近いところでの確かな意思決定を行い、市の組織としての法律上の制約を受けることなく、迅速・柔軟に環境の変化に対応できるようにするものである。

今後、静岡病院は、地方独立行政法人化のメリットを最大限に発揮させ、医療の質の向上と人材確保、安全性と信頼性の向上、利用しやすく快適な病院づくりに取り組み、他の関係機関と連携・交流しながら、地域医療を支える要としての役割を果たしていく必要がある。

そしてこのことが持続的に行われるためには、職員にとって働きやす

い職場環境の整備とやりがいづくりや、地方独立行政法人にふさわしい業務運営体制の構築を行うとともに、財務における健全経営の維持や、地球環境への配慮をしていく必要がある。

そこで、今後も市と静岡病院が連携して、市民が必要とする高度で良質な医療を安定的、継続的に提供するという公的使命を果たしていくに当たり、市はこれらのことについて目標を定め、静岡病院がその達成に向けて取り組むことを求めるものである。

2 計画に係る実績及び自己評価

(1) 全体的な実績（主な取組、成果、課題等）の状況

① 総括 法人移行後2年目となる平成29年度は、導入に向けて準備を進めてきたPET／CTの本格稼動や、行政機関との連携による「がん教育」の推進、病院ウェブサイトの全面リニューアルなどに取り組むとともに、引き続き、地域の基幹病院としての役割を果たすため、救急医療や周産期医療などの政策医療や、実績がある高度医療などの提供に努めた。 診療面については、患者数について、病診連携の更なる推進を図り、患者の安定的な確保に努めた。今年度の状況を昨年度と比較すると、入院患者数は減少、外来患者数はほぼ横ばいという結果であった。市内の救急医療体制が医師不足等により厳しさを増す中、当院は受け入れ体制を維持し、救急搬送患者数は昨年度実績を上回るとともに、引き続き、市内公的病院の中で最も多く受け入れを行うなど、地域の救急医療機関としての役割を果たした。 また、市民が医療・病院を身近に感じていただけるよう、市民公開講座や学生向けの医療体験セミナー等の開催、学生ボランティアによる院内コンサート・フラワーアレンジメントの提供など、市民参画・協働を意識した病院運営を実施した。 経営面については、経営改善プロジェクトなどの活動により、新たな施設基準を取得するなど、診療収益は昨年度に比べ増加となった。費用については、材料費等の節減に努めたが、必要な人員の確保、労働基準監督署の指導による手当ての執行など、昨年度に比べ人件費が増加したことなどの理由により、収支は悪化、2年連続の黒字を達成することはできなかった。	② 大項目ごとの状況 第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するための取組 導入に向けて準備を進めてきたPET／CTを本格稼動させ、高度で先進的な医療を提供するとともに、国、教育機関との連携による「がん教育」に取り組むなど、地域の基幹病院として必要な医療を提供した。 救急医療については、引き続き、断らない救急医療をモットーに、365日24時間体制で患者の受け入れに努め、市内公的病院の中で最も多く救急搬送患者を受け入れるなど、地域の救急医療機関として貢献することができた。高度医療については、実績の高い心疾患・血管疾患治療について、引き続き、ハートセンター等による質の高い医療を提供した。また、平成29年4月から運用を開始したPET／CTについては、他院からの紹介にも対応するなど、順調に稼動させることができた。政策医療については、感染症施設・設備の点検整備や防護服の着脱訓練等を実施し、感染症指定医療機関として、患者発生時に迅速な対応ができるよう、受け入れ態勢を維持した。また、平成29年度実績の精神科患者数は3,450人となり、精神疾患患者への対応に努めた。周産期・小児医療への対応は、H29年度実績の分娩件数が261件となり、母体合併症のあるハイリスク症例などにも対応した。糖尿病や高血圧症などの専門的な治療を引き続き提供するとともに、管理栄養士による食事指導の実施や、地域の公民館等で講演会を開催するなど、予防啓発活動に取り組んだ。災害時医療については、非
--	---

常時を想定した院内での防災訓練の実施や、備蓄食料などの確認・補充、マニュアル改訂などに取り組んだ。さらに、当院のDMAT（災害医療派遣チーム）による政府主導の大規模訓練への参加や、全ての災害拠点病院に対して策定が義務付けられている「BCP（事業継続計画）」の作成など、災害拠点病院としての役割が果たせるよう体制の維持に努めた。チーム医療を推進し、多職種が連携した総合的な医療を提供するとともに、医療の高度専門化に対応するため、必要な医療機器の整備・更新、手術室の整備などを実施した。医療職の確保については、採用試験を随時実施し、現場の診療体制に配慮した安定的な確保に努め、臨床研修医のフルマッチングや7対1看護配置の維持を達成することができた。また、職員に対し、資格取得に必要な支援等を行い、認定看護師を新たに追加するなど、職員の専門性の向上に取り組んだ。医療の安全性と信頼性の向上については、患者の個人情報マニュアル等に従いながら適切に取り扱うとともに、セカンドオピニオンなどの依頼に対して誠実に対応した。また、安全な医療が遂行できる体制・環境を整えるため、引き続き、医療安全管理委員会等を開催するとともに、ヒューマンエラーなどの具体的な事例について、新たにシミュレーション研修などに取り組んだ。さらに、平成29年度から感染管理システムを導入し、職業感染などの各部署の状況を一元管理することで精度の高い感染管理に努めた。目的の異なる利用者に分かりやすく、アクセスしやすいよう、病院ウェブサイトの全面リニューアルを実施し、さらに、特に当院から広く情報発信したい内容について、公的機関や診療所などに配布しやすいようリーフレットの作成に取り組んだ。患者からの要望が多い「待ち時間」については、院外処方箋の受け渡し方法などを改善し、会計の待ち時間を短縮することができた。また、患者満足度調

査のアンケート内容等を見直し、より実態に即した患者ニーズの把握に努めた。市及び医療関係機関との連携、国内外医療関係機関との交流については、法人初年度の業務実績について、市の附属機関である評価委員会へ出席し、市から評価結果の報告を受けるとともに、その内容を法人の理事会、院内会議等で周知した。また、地域の各診療所との顔の見える連携に取り組むなど、医療機関との連携推進に努めた。さらに、全国自治体病院学会などへ参加し、近隣だけでなく市外・県外の医療機関との連携に取り組んだ。

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための取組

働きやすい職場環境と職員のやりがいづくりについては、長時間労働の是正に向けて柔軟な勤務体制の整備に取り組み、医師の勤務実態に合わせた、「変形労働時間制」を検討し、試行することができた。また、職場内のハラスメント防止の研修や、全職員対象のストレスチェック、職員満足度調査など、職員の心理的負担の軽減を図るための取り組みを行い、働きやすい職場環境の整備に努めた。職員の資格取得に必要な費用を法人が負担し、新たに看護師2名が認定看護師となるなど、専門職として技術の向上に必要な支援を行った。また、多職種連携推進会議の開催や、看護研究発表大会、クオリティマネジメント報告会などの事例発表会の開催、院外施設での新職員合同研修の実施など、職員相互のコミュニケーションの活性化に努めた。業務運営体制の構築については、組織体制を弾力的に改組し、新たに「総合相談センター」、「がん相談支援センター」、「総合企画係」を設置した。また、ボランティアによる患者さんの誘導・移送、近隣の学生による院内コンサートなど、市民との協働による病院運営を行った。さらに、「日本医療

機能評価機構」による認定更新に向けて、医師、看護師など全職種からなるプロジェクトチームによる準備や、法人の実績に対する市の評価委員会からの意見、顧問会計士との定例会（毎月）、院内各所に設置された提案箱による患者意見への対応など、外部評価等を活用した病院運営に努めた。また、事務部門を強化するため、他病院での経験者を中心に、即戦力となる実務経験者を8名配置した。さらに、次年度（H30年度）からの配置についても、引き続き、実務経験者を採用し、派遣職員から法人職員への切り替えを進め、成果指標である目標値を達成することができた。

第3 財務内容の改善に関する目標を達成するための取組

収入の確保及び費用の節減に努め、安定的な経営の維持に向けた取り組みを続けるとともに、救急医療や周産期医療など、政策医療を提供していくために必要な市からの運営費負担金の交付の下、法人の収支の均衡に努めた。収益の確保については、職員向けに外部講師による講演会を開催し、他病院の成功事例等について院内に周知を図った。また、経営改善プロジェクトによる取り組みを継続し、施設基準の新規届出や算定率の向上を図るなど、入院単価は〇〇,〇〇〇円で前年度に比べ〇,〇〇〇円増額となり、収入増に効果をあげることができた。さらに、査定減対策として高額査定について委員会での検証や、未収金の圧縮に向けた取り組みなど、引き続き、様々な収入確保策を実施した。費用の節減については、後発医薬品への切り替えを進めるとともに、材料費の抑制に効果のある取り組みを実施し、昨年度に引き続き、薬価交渉の際に民間アドバイザーを同席させ、値引率の向上を図った。さらに、今年度は診療材料費についても薬品同様に民間アドバイザー同席のもと値引き交渉を実施し、材料費の縮減に努めた。しかし、診療体制を維持するために必要となる人員の確保や、労働基

準監督署の指導による手当での執行など、昨年度に比べ人件費は増加となった。さらに、高度医療機器の取得により、昨年度に比べ減価償却費も増加となるなど、費用の増加が大きく、結果的に収支が悪化し、2年連続の黒字を達成することはできなかった。

第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するための取組

電力消費量やCO2排出量の削減を図るため、可能な範囲での照明の消灯・間引きの実施や、環境負荷の少ないLED照明への順次取り換えなどを行った。また、従来、焼却物として処理されていた紙類について、回収方法・分別方法等を関係部署及び業者などと協議することにより、リサイクルの推進を図ることができ、可能な限り環境負荷の少ない病院運営を行いながら、費用削減などの経営改善につなげることができた。

(2) 小項目ごとの実績及び法人自己評価

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置
1 地域医療を支える要としての静岡病院
(1) 広大な市域を支える要としての活動

中期目標	中山間地を含む広大な市域を有する本市において、市民が安心して日々の生活を送るため、都市部や中山間地の住民が等しく医療についての理解を深める活動を行うこと。 また、将来を担う若者を対象に、医療及び医療職に対する理解を深める活動を行うこと。
------	--

中期計画	年度計画	実績及び法人自己評価		評価委員会評価	
		取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
本市の都市部及び中山間地域において、「静岡市民『からだ』の学校」を開催し、市民へ医療情報を発信します。 また、教育関係機関と連携しながら生徒に対しても情報提供を行い、医療及び医療職についての理解を促進します。 上記について専門的に対応する部署として「医療がつなぐ『ひと』と『地域』の交流センタ	本市の都市部及び中山間地域において、「静岡市民『からだ』の学校」を開催し、市民へ医療情報を発信します。 また、教育関係機関と連携しながら生徒に対して医療及び医療職についての情報提供を行い、その理解を促進します。	学生に対し、医療などについての理解を促進するため、平成29年度からの新規事業として、教育委員会との連携による「がん教育」の活動を始めた。これは、文部科学省が推進するモデル事業であり、市内の中学校で実際に当院の医師が「がん教育」に関する授業を実施することにより、がんに関する理解を深めていただくもので、平成29年度の実績は3校に対し延べ4日間で5時間授業を実施した。 また、市民の皆さんが「からだ」や病気の仕組みを根本から学んでいただく場として、引き続き、「静岡市民『からだ』の学校」を実施した。6月に第7回を開催し、当院の整形外科医や理学療法士による講	3		

ー」を設置します。		演等に約 340 名が参加した。同様に、中山間地域（井川、梅ヶ島、清沢 8 月～9 月開催）で開催した講演には約 108 名の参加があった。さらに、10 月には第 8 回が開催され、当院の放射線科医などの講演に約 240 名が参加し、平成 29 年度に開催された「静岡市民『からだ』の学校」全体の参加人数は延べ約 700 名となった。 さらに、夏休み期間の 7 月～8 月にかけては、学生向けの医療体験セミナー等を開催し、中学生対象の「ブラックジャックセミナー」（参加者 35 名）、「中学生 1 日ナース体験」（参加者 13 名）、高校生対象の「ころざし育成セミナー」（参加者 25 名）、「高校生 1 日ナース体験」（参加者 96 名）を実施した。 市民の医療への関心を高めるため、健康講座や教育等、様々な機会を通じて、広く啓発することができた。																					
【関連指標】 <table><tr><th>項目</th><th>平成 28 年度実績</th><th>平成 29 年度実績</th></tr><tr><td rowspan="2">静岡市民「からだ」の学校開催</td><td>都市部 2 回</td><td>都市部 2 回</td></tr><tr><td>山間部 3 回</td><td>山間部 3 回</td></tr><tr><td rowspan="2">中高生の病院体験セミナー開催</td><td>高校生 1 回</td><td>高校生 1 回</td></tr><tr><td>中学生 2 回</td><td>中学生 2 回</td></tr><tr><td>中学生を対象とした職場体験学習</td><td>5 名</td><td>17 名</td></tr></table>						項目	平成 28 年度実績	平成 29 年度実績	静岡市民「からだ」の学校開催	都市部 2 回	都市部 2 回	山間部 3 回	山間部 3 回	中高生の病院体験セミナー開催	高校生 1 回	高校生 1 回	中学生 2 回	中学生 2 回	中学生を対象とした職場体験学習	5 名	17 名		
項目	平成 28 年度実績	平成 29 年度実績																					
静岡市民「からだ」の学校開催	都市部 2 回	都市部 2 回																					
	山間部 3 回	山間部 3 回																					
中高生の病院体験セミナー開催	高校生 1 回	高校生 1 回																					
	中学生 2 回	中学生 2 回																					
中学生を対象とした職場体験学習	5 名	17 名																					

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 地域医療を支える要としての静岡病院

(2) 救急医療

中期目標	地域の救急医療を担う中核的な病院として、本市の救急医療体制のもと、他の医療機関と連携しながら、引き続き365日24時間の「ことわらない救急」を実践し、市民が安心できる救急医療を提供すること。
------	---

中期計画	年度計画	実績及び法人自己評価		評価委員会評価	
		取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
他の医療機関と連携しながら365日24時間の「ことわらない救急」を継続します。 また、高度な救急医療の提供のために、新たに「救急科」を設置します。	他の医療機関と連携しながら365日24時間の「ことわらない救急」を提供します。	地域の救急患者をできる限り受け入れる体制を維持するため、「ことわらない救急医療」をモットーに、365日24時間体制で救急医療を提供するとともに、平成29年度の市内公的病院輪番制による2次救急医療（当番日）の実績は、内科81日、外科88日、小児科43日であった。 成果指標である「救急搬送患者数の市内公的病院全体の中での当院が占める割合」は、平成29年度実績21.1%となり、目標値には届かなかったものの、受け入れた救急搬送患者の人数については当院が最も多く、6,161人となった。さらに、救急患者の中でも特に重症な患者を多く受け入れていることを示す「救急医療係数」は、当院を含め県内にあるDPC特定病院	3		

		群 6 病院の中で当院が一番高い実績（H29 年度）となるなど、緊急性の高い患者の生命を一人でも多く守ることにより、救急医療体制の充実に貢献した。また、不応需事例については、多職種からなる委員会での検証に取り組むなど、引き続き、患者受け入れ体制の強化に努めた。 当院は地域の救急救命士の実習受入施設として、平成 29 年度は救急救命士 6 名（実習延べ日数 100 日）を受け入れて指導を行うなど、地域の救急医療を担う人材の育成にも貢献した。												
【成果指標】 <table><tr><td>項目</td><td>平成 28 年度実績</td><td>平成 29 年度目標</td><td>平成 29 年度実績</td></tr><tr><td>救急搬送患者数の市内公的病院全体の中での当院が占める割合</td><td>21.3%</td><td>23.0%以上</td><td>21.1%</td></tr></table>				項目	平成 28 年度実績	平成 29 年度目標	平成 29 年度実績	救急搬送患者数の市内公的病院全体の中での当院が占める割合	21.3%	23.0%以上	21.1%			
項目	平成 28 年度実績	平成 29 年度目標	平成 29 年度実績											
救急搬送患者数の市内公的病院全体の中での当院が占める割合	21.3%	23.0%以上	21.1%											
【関連指標】 <table><tr><td>項目</td><td>平成 28 年度実績</td><td>平成 29 年度実績</td></tr><tr><td>救急患者数</td><td>13,523 人</td><td>13,353 人</td></tr><tr><td>救急車搬送数</td><td>5,894 人</td><td>6,161 人</td></tr></table>				項目	平成 28 年度実績	平成 29 年度実績	救急患者数	13,523 人	13,353 人	救急車搬送数	5,894 人	6,161 人		
項目	平成 28 年度実績	平成 29 年度実績												
救急患者数	13,523 人	13,353 人												
救急車搬送数	5,894 人	6,161 人												

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 地域医療を支える要としての静岡病院

(3) 高度医療

中期目標	本市の基幹病院として、高度医療を提供する必要があるが、特に次の点について重点的に取り組むこと。 ①心疾患 「心臓なら静岡」という市民の期待にしっかり応えるため、「ハートセンター」において、地域の心疾患治療を牽引する専門性の高い先進的な治療を行うこと。 ②がん 地域がん診療連携拠点病院として、日進月歩の様々な治療方法に的確に対応した先進的で質の高いがん治療を行うこと。
------	---

中期計画	年度計画	実績及び法人自己評価		評価委員会評価	
		取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
本市の基幹病院として、高度医療を提供する必要がありますが、特に次の点について重点的に取り組みます。 ①心疾患 「ハートセンター」において、循環器内科と心臓血管外科が連携して、従来から高い実績を持つ心臓血管手術や	本市の基幹病院として、高度医療を提供する必要がありますが、特に次の点について重点的に取り組みます。 ①心疾患 「ハートセンター」において、循環器内科と心臓血管外科が連携して、従来から高い実績を持つ心臓血管手術や	心疾患については、循環器内科と心臓血管外科が一体となったハートセンターにより、最先端の心・血管疾患の治療を提供した。大動脈瘤に対するステントグラフト、TAVI（経カテーテル大動脈弁留置術）といった先進的な治療の提供や、疾患別ネットワークによる病診連携・病病連携の推進に取り組んだ。関連指標の項目以外に、不整脈の代表的な治療法であるカテーテルアブレーションは H29 年度実績 197 件と年々件数を伸ばしている。	4		

カテーテル治療などの幅広い専門的な治療を行うとともに、ＣＴや血管造影を行いながら手術ができるハイブリッド手術室や経カテーテル大動脈弁置換術（ＴＡＶＩ）などによる先進的な医療を行います。 ②がん 手術支援ロボット「ダヴィンチ」による前立腺がん手術以外への新たな展開や「リニアック」による放射線治療を継続して実施します。 また、新たにＰＥＴ－ＣＴの導入により画像診断の充実を図るなど、がん診療体制を強化していきます。	カテーテル治療などの幅広い専門的な治療を行うとともに、ＣＴや血管造影を行いながら手術ができるハイブリッド手術室や経カテーテル大動脈弁置換術（ＴＡＶＩ）などによる先進的な医療を行います。 ②がん 手術支援ロボット「ダヴィンチ」による前立腺がん等の手術や更新したリニアックによる質の高い放射線治療を継続して実施します。 また、ＰＥＴ－ＣＴを導入し、画像診断の充実及び病病連携・病診連携の推進（周知等の活動）により、がん診療体制の強化を図ります。	また、使用頻度の高い血管造影撮影装置（アンギオグラフィー）については、より鮮明な画像となる後継機種への更新（平成３０年度予定）に向けて、工事期間中の運用方法等について慎重に検討を行った。 当院は、質の高いがん医療の提供を担う「がん診療連携拠点病院」に指定されており、手術支援ロボット「ダヴィンチ」や最新の放射線治療装置などにより、引き続き質の高いがん治療の提供に努めた。 導入に向けて準備を進めてきたＰＥＴ／ＣＴについては、平成２９年４月から運用を開始、１日に５人の枠で検査を実施し、６月からは他院からの紹介にも対応可能となった。ＰＥＴ／ＣＴ検査件数の平成２９年度実績は７４３件となり、導入初年度としては順調に稼働させることができた。なお、現在は保険診療適用の患者（がん患者）に限定した運用となっているが、今後（来年度）は自費診療となる「がん検診」への利用にむけて、他の健診施設との連携・調整や、院内委員会での検討などに取り組んだ。また、予防医学としてのがん検診の更なる充実を図るため、当院の産婦人科において、新たに「子宮体がん・子宮頸がん検診、超音波検査、HPV 検査」を			
--	--	--	--	--	--

		平成 29 年 4 月から開始し、平成 29 年度 116 件の実績をあげることができた。																																											
【関連指標】 <table><tr><th>項目</th><th>平成 28 年度実績</th><th>平成 29 年度実績</th></tr><tr><td>心臓血管外科</td><td></td><td></td></tr><tr><td>手術総数</td><td>870 件</td><td>850 件</td></tr><tr><td>開心術</td><td>375 件</td><td>367 件</td></tr><tr><td>循環器内科</td><td></td><td></td></tr><tr><td>心臓カテーテル検査</td><td>2,596 件</td><td>2,540 件</td></tr><tr><td>冠動脈インターベンション</td><td>477 件</td><td>469 件</td></tr><tr><td>TAVI</td><td>22 件</td><td>37 件</td></tr></table> 【関連指標】 <table><tr><th>項目</th><th>平成 28 年度実績</th><th>平成 29 年度実績</th></tr><tr><td>前立腺がん手術件数</td><td>52 件</td><td>63 件</td></tr><tr><td>がん手術件数</td><td>994 件</td><td>947 件</td></tr><tr><td>放射線治療件数</td><td>254 件</td><td>264 件</td></tr><tr><td>疾病分類別（新生物（悪性））入院患者数</td><td>2,444 人</td><td>2,298 人</td></tr></table>					項目	平成 28 年度実績	平成 29 年度実績	心臓血管外科			手術総数	870 件	850 件	開心術	375 件	367 件	循環器内科			心臓カテーテル検査	2,596 件	2,540 件	冠動脈インターベンション	477 件	469 件	TAVI	22 件	37 件	項目	平成 28 年度実績	平成 29 年度実績	前立腺がん手術件数	52 件	63 件	がん手術件数	994 件	947 件	放射線治療件数	254 件	264 件	疾病分類別（新生物（悪性））入院患者数	2,444 人	2,298 人		
項目	平成 28 年度実績	平成 29 年度実績																																											
心臓血管外科																																													
手術総数	870 件	850 件																																											
開心術	375 件	367 件																																											
循環器内科																																													
心臓カテーテル検査	2,596 件	2,540 件																																											
冠動脈インターベンション	477 件	469 件																																											
TAVI	22 件	37 件																																											
項目	平成 28 年度実績	平成 29 年度実績																																											
前立腺がん手術件数	52 件	63 件																																											
がん手術件数	994 件	947 件																																											
放射線治療件数	254 件	264 件																																											
疾病分類別（新生物（悪性））入院患者数	2,444 人	2,298 人																																											

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 地域医療を支える要としての静岡病院

(4) 政策医療

中期目標	公的病院として、市民ニーズに応じて採算性にかかわらず必要な医療を提供していかなければならないが、特に次の点について重点的に取り組むこと。 ①感染症及び精神疾患患者身体合併症 本県で唯一の第一種感染症指定医療機関としての役割を果たすとともに、精神疾患患者の身体合併症に対応する医療を提供すること。 ②周産期及び小児 本市で子どもを安心して産み育てることができるよう、専門的な周産期医療や小児医療を提供すること。 ③生活習慣病 超高齢社会の到来に伴い、患者数の増加が予想される糖尿病等の生活習慣病などに対して専門的な医療を提供すること。
------	--

中期計画	年度計画	実績及び法人自己評価		評価委員会評価	
		取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
公的病院として、市民が日々安心して暮らすために必要な医療を提供していかなければなりません、特に次の点について重点的に取り組みます。 ①感染症及び精神疾患	公的病院として、市民が日々安心して暮らすために必要な医療を提供していかなければなりません、特に次の点について重点的に取り組みます。 ①感染症及び精神疾患	当院は、エボラ出血熱などの一類感染症に対応できる県内唯一の施設（第一種感染症指定医療機関）であり、患者発生時に迅速な対応ができるよう、引き続き受け入れ態勢の維持に努めた。感染症患者の発生を想定し、感染症病棟スタッフを対象に、感染症に関する知識の習得、個人用防護服の着脱訓練、患者受け入れシミ	3		

患者身体合併症 本県で唯一の第一種感染症指定医療機関であり、また、本市において重要な役割を担う第二種感染症指定医療機関であるため、その役割を果たせるようエボラ出血熱などの感染症患者にも対応できる医療体制を確保し、迅速な患者の受け入れに備え、精神疾患患者の身体合併症治療を行います。 ②周産期及び小児 本市で子どもを安心して産み育てることができるよう、専門的な周産期医療や小児医療を提供します。 ③生活習慣病 糖尿病、動脈硬化、高血圧症などの生活習慣	患者身体合併症 本県で唯一の第一種感染症指定医療機関であり、また、本市において重要な役割を担う第二種感染症指定医療機関であるため、その役割を果たせるようエボラ出血熱などの感染症患者にも対応できる医療体制を院内感染委員会等を通じて常に整え、保健所等関係機関との連携により迅速な患者の受け入れに備え、精神疾患患者の身体合併症治療を行います。 ②周産期及び小児 専門的な周産期医療や小児医療を安定的に提供します。 ③生活習慣病 糖尿病治療、糖尿病性網膜症・腎症・動脈硬	ユレーションなどの研修を開催した（H29年7月）。また、感染症施設・設備の保守点検及び備品類の整備・補充などに取り組み、万全の体制を維持した。さらに、平成30年1月には、静岡市保健所による感染症患者の発生を想定した訓練が行われ、実際に患者を当院まで搬送する訓練を実施し、当院は受け入れ態勢の確認等を行った。 精神疾患への対応については、平成29年度実績の当院の精神科患者数は3,450人となり、救急対応を含め身体面・精神面を併せた、迅速かつ適切な医療を提供した。 周産期・小児医療については、平成29年度実績の分娩件数が261件、母体合併症のあるハイリスク症例（妊産婦合併症例）については25件実施し、地域周産期母子医療センターとして市内の周産期医療体制に貢献した。また、妊婦さんが安心して子どもを産み育てることが出来るよう、助産師による妊婦保健指導にも取り組んだ。 生活習慣病については、糖尿病や高血圧症などの専門的な治療を引き続き提供するとともに、管理栄養士による食事指導（H29実績3,582件）、の実施や、地域			
--	---	---	--	--	--

病について、幅広く専門的な医療を提供するとともに、講習会などの予防に係る啓発活動も行います。	化症などの合併症や高血圧症への治療を、本院の総合病院機能の活用や、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士等で構成されるチームにより専門的に行います。また、講習会の開催などの予防に係る啓発活動を行います。	の公民館等で食生活に関する講座を開催（H29 実績 3 回開催）するなど、引き続き、予防啓発活動に取り組んだ。																	
【関連指標】 <table><tr><th>項目</th><th>平成 28 年度実績</th><th>平成 29 年度実績</th></tr><tr><td>小児科患者数</td><td></td><td></td></tr><tr><td> 入院</td><td>2,374 人</td><td>2,451 人</td></tr><tr><td> 外来</td><td>4,603 人</td><td>4,928 人</td></tr><tr><td>分娩件数</td><td>311 件</td><td>261 件</td></tr></table>			項目	平成 28 年度実績	平成 29 年度実績	小児科患者数			入院	2,374 人	2,451 人	外来	4,603 人	4,928 人	分娩件数	311 件	261 件		
項目	平成 28 年度実績	平成 29 年度実績																	
小児科患者数																			
入院	2,374 人	2,451 人																	
外来	4,603 人	4,928 人																	
分娩件数	311 件	261 件																	
【関連指標】 <table><tr><th>項目</th><th>平成 28 年度実績</th><th>平成 29 年度実績</th></tr><tr><td>栄養指導件数</td><td>3,121 件</td><td>3,582 件</td></tr></table>			項目	平成 28 年度実績	平成 29 年度実績	栄養指導件数	3,121 件	3,582 件											
項目	平成 28 年度実績	平成 29 年度実績																	
栄養指導件数	3,121 件	3,582 件																	

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 地域医療を支える要としての静岡病院

(5) 災害時医療

中期目標	南海トラフ巨大地震等の発生が想定される中、静岡病院には災害時における重症患者の受け入れ等の中核的な医療の提供が求められる。 災害拠点病院として、日頃から、その発生に備え、人的・物的資源を整備し、訓練を行い、発生時には関係機関と連携しながら、また自らの判断で必要な対応を迅速に行うこと。
------	--

中期計画	年度計画	実績及び法人自己評価		評価委員会評価	
		取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
a 地震防災対策マニュアル等について病院機能の損失度に応じた見直しを行うとともに、災害対応の訓練を日頃から行い、発生時においては、関係機関と連携しながら、また自らの判断のもと、必要な医療救護活動を迅速に実施します。	a 地震防災対策マニュアル等について病院機能の損失度に応じた見直しを行うとともに、災害対応の訓練を行い、発生時において、関係機関と連携し、また自らの判断のもと、必要な医療救護活動を迅速に実施できるように備えます。	当院は災害拠点病院に指定されており、災害時の医療救護活動において中心的な役割を担う病院として位置づけられている。平成28年4月に発生した熊本地震を教訓に、厚生労働省は全ての災害拠点病院に対し、被災後、速やかに機能の回復を図り、診療を続けるための「事業継続計画（BCP）※」策定等を義務化したことに伴い、「静岡市立静岡病院 事業継続計画（第1版 平成30年1月策定）」を策定した。 訓練などの具体的な活動としては、防災訓練の実施（「総合消防防災訓練 10月」、「総合防災訓練 12月」）や、研修の実施（「防火防災設備研修4月」、「災害時	3		
b 非常電源や水源の確保など災害時に必要となる施設・機器の更	b 非常電源や水源の確保など災害時に必要となる施設・機器の更				

新や維持管理を行うとともに、医薬品や医療資器材、食料の必要な備蓄等を行います。 c 市外における大規模災害発生時の援助要請に応えられるよう、引き続き災害医療派遣チーム（DMAT）を編成します。 d 大規模災害発生時等に災害現場等から重症患者を受け入れるため、ヘリポートの設置可能性を検討します。	新や維持管理を行うとともに、医薬品や医療資器材、食料の必要な備蓄等を行います。 c 災害医療派遣チーム（DMAT）を編成して訓練を行い、市外における大規模災害発生時の援助要請に備えます。 d ヘリポート施設設置の可能性について、工法、運用面及び財政面等を総合的に勘案して検討します。	医療講習会 11 月」、「トリアージ講習会 2 月」、全職員への一斉メールによる伝達訓練（3 回実施）、さらに、訓練内容やマニュアルについて、被災時における各職員の役割などを今まで以上に明確化するように改善に向けて取り組んだ。 また、引き続き、施設・機器の維持管理に努め、設備の定期点検や、備蓄食料などの確認・補充を行った。（飲料水 900L、非常食 3,405 食（平成 29 年 7 月購入）今年度は、DMAT（災害医療派遣チーム）隊員の資格を持つ職員が新たに 3 名（看護師 1 名、薬剤師 1 名、事務 1 名）加わり、当院の DMAT は 2 チーム編成が可能となった。平成 29 年 7 月には、政府主導の大規模地震時医療活動訓練に当院の DMAT（医師 1 名、看護師 2 名、臨床工学士 1 名、事務 1 名）1 チームが参加し、4 府県の会場（三重県、大阪府等）に全国から約 350 チームが集まる大規模な訓練に参加することにより、他の DMAT や自衛隊との連携強化を図ることができた。 ※事業継続計画（BCP） Business Continuity Plan 震災などの緊急時に低下する業務遂行能力を補う非常時優先業務を開始するための計画			
--	--	--	--	--	--

【関連指標】

項目	平成 28 年度実績	平成 29 年度実績
防災訓練	4 回	2 回
研修など	4 回	4 回

項目	平成 28 年度実績	平成 29 年度実績
DMA T 訓練回数	3 回	4 回

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

2 医療の質の向上と人材の確保

(1) 総合的な診療とチーム医療の実施

中期目標	医療の高度化、複雑化に対応し、より患者に寄り添った治療を行うため、診療科や職種を超えた連携により、総合的な診療とチーム医療を提供すること。
------	---

中期計画	年度計画	実績及び法人自己評価		評価委員会評価	
		取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
患者一人ひとりに最適な専門医療を提供するため、診療科や職種の枠を超えた連携により、総合的な診療とチーム医療を推進するとともに、そのための医療スタッフの養成に取り組めます。	当院のチーム医療（ハートセンター、消化器総合センター、呼吸器センター、緩和ケアチーム、栄養サポートチーム、がんリハビリテーション、褥瘡対策チーム、呼吸サポートチーム）を推進し、診療科や職種を超えた連携により、それぞれの専門性を生かした質の高い医療を一体的に提供します。	心臓血管外科と循環器内科の「ハートセンター」、消化器内科と消化器外科の「消化器総合センター」など、複数の診療科が相補的に共同診療を行い、より質の高い医療を提供した。また、院内の多職種のメンバーで構成された各チームにおいて、専門性を生かしたチーム医療を引き続き実践し、関連指標に示したものの他、がんリハビリテーション件数 1,589 件、褥瘡対策チーム（回診数 41 回）、呼吸サポートチーム（回診週 1 回）を実施した。	3		

【関連指標】

項目	平成 28 年度 実績	平成 29 年度 実績
心臓リハビリ件数	731 件	807 件
栄養サポートチーム回診件数	89 件	62 件
緩和ケアチーム対応患者数	59 人	88 人

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

2 医療の質の向上と人材の確保

(2) 先進医療機器や設備の整備

中期目標	医療の高度化への対応や、医療水準を維持するために、先進医療機器や設備等を的確に整備・更新すること。
------	---

中期計画	年度計画	実績及び法人自己評価		評価委員会評価	
		取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
a 新たな医療機器の開発状況、他の医療機関における状況などを踏まえて、PET-CTなどの先進医療機器を整備します。 b 医療機器・施設の稼働状況や耐用年数、他の医療機関における状況などを踏まえて、アンギオグラフィ（血管撮影装置）や付帯設備の更新など、医療機器や施設を整備・更新します。	a 新たな医療機器の開発状況、他の医療機関における導入状況などを踏まえて先進医療機器を整備します。 b 医療機器・施設の稼働状況や耐用年数、他の医療機関における状況などを踏まえて、医療機器や施設を整備・更新します。	先進医療機器としては、導入に向けて準備を進めてきたPET/CTが、平成29年4月から運用を開始し、順調に稼働することができた。 さらに、医療の高度専門化のために、医療機器の整備更新を行い、内視鏡ビデオシステム、長時間心電図解析装置、CTの管球などを購入した。施設整備では、空調用ポンプ交換、昇降機修繕、手術室のヘパフィルター交換などを行った。	3		

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

2 医療の質の向上と人材の確保

(3) 医療職の確保、知識の習得、技術の向上

中期目標	医師、看護師等の医療職を確保するとともに、医療の高度化、複雑化に対応するため、その専門性や技術の向上を図ること。
------	--

中期計画	年度計画	実績及び法人自己評価		評価委員会評価	
		取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
a 地方独立行政法人の特徴を生かし、従来の定数管理や雇用形態・勤務形態にとらわれず、多様な雇用形態等を取り入れ、必要な時に必要な医療職を確保します。	a 医療職について必要な時に必要な人数を随時採用するとともに、女性医師等のワーク・ライフ・バランスの実現に向けた柔軟な勤務体制を整備し、制度の利用促進に努めます。	医療職の確保については、随時、採用試験を実施（年6回）し、平成29年7月医師2名及び看護師2名、平成29年9月看護師1名、平成29年10月医師1名及び看護師2名、平成29年11月看護師4名、平成29年12月看護師3名を採用した。現場の診療体制に配慮し、適切なタイミングで人員を確保することができた。	3		
b 医師、看護師、薬剤師、医療技術者等について、院内研修の充実や研究・研修会への参加を促進するとともに、専門資格取得のため、院外での教育研修等	また、7対1看護配置を維持するため、看護師の安定的な確保に努めます。 b 院内研修の充実や研究・研修会への参加を促進します。また、資	新専門医制度への取り組みとして、内科と外科で当院を基幹施設とする専門研修プログラムを作成し、当院の初期研修医に対し、各プログラムの説明会を実施するとともに、院外の初期研修医にも同様の説明会を実施した。さらに、東京などの大都市で開催されるリクルートイベントに、当院のプログラム担当の医師が直接出向き、初			

への参加を支援します。 ○ 静岡市立看護専門学校等との連携を図り、優れた看護師の養成を支援します。	格取得を支援するため予算処置を講じ、診療報酬上必要な資格の取得については、専門医等資格取得支援委員会に諮り、資格保持者の欠員がでないように措置していきます。 ○ 看護実習の場の提供等により、静岡市立看護専門学校等との連携を図り、優れた看護師の養成を支援します。	期研修医へ丁寧な説明を実施するなど、専門医の確保に努めた。 次年度採用予定の看護師は 77 人となり、7 対 1 看護配置体制の維持を念頭に、安定的に確保することができた。 各職種ごと、それぞれ専門的な研修を計画的に実施するとともに、事務職については、静岡市が行う市職員向けの専門研修に積極的に参加した。資格取得に必要な支援を行い、平成 29 年度の実績で新たに 2 名が認定看護師となった。また、診療報酬上の施設基準に必要な専門職等を正確に把握するため、引き続き、人事係と診療報酬係が綿密に連携し、新たな資格取得者や退職予定者など、在籍する職員の専門資格の情報共有に努めた。 確かな知識と実践力のある看護人材を養成するため、静岡看護専門学校、常葉大学、静岡県立大学、神戸常盤短期大学、大阪保健福祉専門学校から看護実習生を受け入れた。当院の経験豊富な指導者と充実した実習環境のもと、学生への効果的な実習を行うことができた。			
---	--	---	--	--	--

【成果指標】

項目	平成 28 年度実績	平成 29 年度目標	平成 29 年度実績
7 対 1 看護配置に向けた看護師の増員数（H25 年度比）	65 人	90 人	53 人

【関連指標】

項目	平成 28 年 4 月 1 日	平成 29 年 4 月 1 日
医師数	150 人	158 人
看護師数	496 人	484 人

項目	平成 28 年度実績	平成 29 年度実績
専門医資格取得数	151 件	177 件
指導医資格取得数	65 件	72 件
認定看護師数（人）	9 人	2 人
看護実習受入人数	213 人	295 人

第 1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

2 医療の質の向上と人材の確保

(4) 臨床研修医の育成

中期目標	臨床研修病院として、ニーズに合致した魅力的なプログラムの構築等により教育研修機能の充実を図り、臨床研修医の育成に積極的に取り組むこと。
------	---

中期計画	年度計画	実績及び法人自己評価		評価委員会評価	
		取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
研修医の要望や社会的な要請に合致した研修プログラムの充実、研修プログラム及び指導医・研修医に対する評価による研修内容のさらなる向上により、臨床研修医の受け入れ推進と定着を図ります。	臨床研修運営委員会、臨床研修管理委員会を開催し、研修プログラムの充実を図り、特に研修医からの要望が強い模擬実習について、高度な技術を効率よく習得できる実習施設（シミュレーションラボ）の活用など、当院の特長を活かした研修や実習を充実させることで、臨床研修医にとって魅力ある職場環境を示し、人材の確保と定着を図ります。	人材の確保と定着を目的に、臨床研修医の安定的な確保に向けて様々な活動を実施した。レジナビフェアに 5 回、東海北陸厚生局や静岡県主催のリクルートイベントなどに計 9 回参加し、興味を示した医学生 85 名が当院のブースに訪れた。また、医学生の病院見学については、交通・宿泊の支援を行い、日本各地の大学からは、教育研修管理室の室長あるいは副室長が直に対応するなど、丁寧な説明と勧誘に努めた。さらに、医学生 30 名を 2 週間にわたり実習生として受け入れ、当院の特長や魅力を直接感じていただく機会を設けた。 その結果、臨床研修医募集定員充足率	4		

		は、募集定員 13 名に対し応募は 30 名でフルマッチングとなり、平成 29 年度の目標値を達成することができた。 また、研修支援プログラムの充実（延べ 470 人受講）、模擬実習が可能なシミュレーションラボの活用（研修医 延べ 336 人利用）、臨床研修運営委員会（毎月 2 回開催）・臨床研修管理委員会（年 3 回開催）の開催など、引き続き、教育研修管理室を中心に、病院全体で研修医を支援する取り組みを続けた。												
【成果指標】 <table><tr><td>項目</td><td>平成 28 年度 実績</td><td>平成 29 年度 目標</td><td>平成 29 年度 実績</td></tr><tr><td>臨床研修医募集定員充足率</td><td>100%</td><td>100%</td><td>100%</td></tr></table>					項目	平成 28 年度 実績	平成 29 年度 目標	平成 29 年度 実績	臨床研修医募集定員充足率	100%	100%	100%		
項目	平成 28 年度 実績	平成 29 年度 目標	平成 29 年度 実績											
臨床研修医募集定員充足率	100%	100%	100%											
【関連指標】 <table><tr><td>項目</td><td>平成 28 年度 実績</td><td>平成 29 年度 実績</td></tr><tr><td>臨床研修医マッチング数</td><td>13 人</td><td>13 人</td></tr></table>					項目	平成 28 年度 実績	平成 29 年度 実績	臨床研修医マッチング数	13 人	13 人				
項目	平成 28 年度 実績	平成 29 年度 実績												
臨床研修医マッチング数	13 人	13 人												

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

2 医療の質の向上と人材の確保

(5) 調査・研究、治験の実施

中期目標	より質の高い医療を提供するための調査・研究、治験に積極的に取り組むこと。
------	--------------------------------------

中期計画	年度計画	実績及び法人自己評価		評価委員会評価	
		取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
新しい治療法の開発等に貢献する臨床研究や治験に積極的に取り組みます。 なお、実施にあたっては、参加者の自発的意思や人権に対して最大限配慮いたします。	新しい治療法の開発等に貢献する臨床研究や治験に、参加者の意思を尊重しながら積極的に取り組みます。	倫理的かつ適正に臨床研究及び治験を実施するため、平成 28 年に新設された「臨床研究支援センター」が中心となり、様々な取り組みを行った。 医療倫理審査委員会での審議（H29 実績 本審査 5 回開催、迅速審査 12 回開催、件数 47 件）や、治験審査委員会での審議（H29 実績 9 回開催、件数 177 件）に加え、倫理規定の見直しや、新たな倫理指針への対応と院内への周知及び外部講師による講演会（参加者 医師 100 名、医療技術員 103 名）を開催した。さらに、治験件数の増加を目的に、新規の治験施設支援機関（SMO）との基本契約を締結（H29 年 7 月）するなど、臨床研究・治験の推進に向けて積極的に取り組んだ。	3		

【関連指標】

項目	平成 28 年度 実績	平成 29 年度 実績
治験実施件数	6 件	5 件
治験実施率	79%	83%

第 1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

3 医療の安全性と信頼性の向上

(1) 十分な情報提供と適切な取扱い

中期目標	患者との信頼関係の構築に努め、患者への十分な情報提供・説明と同意のもとに医療を提供すること。 診療情報を適切に管理するとともに、患者情報の保護及び病院に係る情報の公開に関しては、静岡県個人情報保護条例及び静岡県情報公開条例に基づき適切に対処すること。
------	---

中期計画	年度計画	実績及び法人自己評価		評価委員会評価	
		取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
a 常に患者やその家族の立場に立ち、誠意を持った対応を心がけるとともに、医療の提供に当たっては、インフォームドコンセント（患者へ診療の目的や内容を十分に説明し、その同意を得ること）を徹底します。また、患者やその家族が、治療法等の判断に当たり主治医とは別の医師の意見を求めたとき、適切にセカンドオピニオン	a 常に患者やその家族の立場に立ち、誠意を持った対応を心がけるとともに、医療の提供に当たっては、インフォームドコンセントを徹底します。また、治療計画書を活用し、入院中の診療スケジュールについてわかりやすく説明します。そして、患者やその家族が、治療法等の判断に当たり主治医とは別の医師の意見を求めたとき、適	患者様の立場に立った良質で安全な医療を提供するため、引き続き、インフォームドコンセントの徹底やセカンドオピニオン外来による他院への紹介などを実施した。さらに、平成 29 年度から総合相談センター内に「入退院支援室」を設置し、提出書類や入院中のスケジュールの説明、さらに薬剤師による持参薬の確認など、入院前から退院後にかけて患者さんが抱える様々な不安の解消に努めた。 病気や治療について患者の理解を促進するため、引き続き、静岡市民「からだ」の学校（都市部 2 回、地域版 3 回）を開催した。さらに、当院の看護師や薬剤師が市内の公民館等に出向き、薬の使い方やイ	3		

（患者及びその家族が、病状や治療法等について、主治医とは別の専門医に意見を聴くこと）を受けられる体制の整備を行います。 b 定期的な市民公開講座や、「患者の会」への医師等による講演、医療相談等を実施し、疾病に係る患者理解を促進するとともに、病院と患者との信頼関係の醸成を図ります。 c 患者情報に係る保護及び病院に係る情報の公開については、市の関連条例の実施機関として、適切に取り扱います。	切にセカンドオピニオン（患者及びその家族が、病状や治療法等について、主治医とは別の専門医に意見を聴くこと）を受けられる体制の整備を行います。 b 定期的に市民公開講座を実施します。また、病院施設内に、心臓病、消化器病、糖尿病などの「患者の会」が活動しやすい場所を提供するとともに、医師等による講演や医療相談等を実施し、疾病に係る患者理解の促進を図り、病院と患者との信頼関係の醸成を図ります。 c 患者情報に係る保護及び病院に係る情報の公開については、市の関連条例の実施機関として、適切に取り扱います。	ンフルエンザなどの身近なテーマについて講演を行う「出前講座」を実施した。（H29年度実績 20箇所、参加人数650人） また、当院の患者の会（心臓病友の会、糖尿病友の会、消化器病友の会）が主催する講演会、研修会、記念事業などに、当院の医師が講師として出席するなど、医師と患者との信頼関係の構築に努めた。 患者の個人情報については、引き続き、市の条例やマニュアルに基づき適切に運用するとともに、院内マニュアルについては、個人情報保護委員会を開催し、事故や苦情対応のフロー図を追加するなど、職員の理解等がより深まるよう改善を図った。また、法律などの個人情報保護制度を正しく理解し、患者情報をより適正に管理していくため、担当職員を外部の専門研修（H29年9月実施）に参加させた。			
--	---	---	--	--	--

【関連指標】

項目	平成 28 年度実績	平成 29 年度実績
セカンドオピニオン件数		
受入	29 件	28 件
紹介	42 件	65 件

【関連指標】

項目	平成 28 年度 実績	平成 29 年度 実績
診療録開示件数	58 件	48 件

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

3 医療の安全性と信頼性の向上

(2) 医療安全管理等の徹底

中期目標	市民に信頼される安心・安全な医療を提供するため、医療安全に係る情報の収集・分析を踏まえた医療安全管理を行うとともに、院内感染防止対策を実施すること。
------	--

中期計画	年度計画	実績及び法人自己評価		評価委員会評価	
		取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
医療安全管理室が中心となって、医療安全に係る情報収集及び分析、改善案の立案、院内教育研修などの医療安全管理を行うとともに、感染管理室が中心となって、感染症に係る情報収集及び分析、院内の調査・監視などの院内感染防止対策を実施します。	医療安全管理について、医療安全管理委員会を毎月開催し、各部署の問題点等の検討や各種マニュアルの見直し等を行うとともに、医療安全研修会を定期的で開催します。 また、院内感染防止について、院内感染対策委員会を毎月開催し、感染対策マニュアルの周知徹底・啓発及び感染者情報等の共有を行うとともに、感染管理認定看護師を中心とした研修会等を実施	安全な医療が遂行出来る体制・環境を整えるため、引き続き、医療安全管理委員会等を開催するとともに、平成29年度は、より実践的・効果的な研修の実施に向けて取り組んだ。 具体的な内容としては、ヒューマンエラーとして事例の多い「患者誤認」を防止するため、従来の講義形式ではなく、模擬的に臨床現場を再現して行う体験型のシミュレーション研修を実施することができた。事前に外部で研修を受講し、院内研修の運営に必要な知識等を有する職員(医療安全管理室)を中心に準備を進め、外来及び病棟の看護師、医療補助員などを対象に、一定期間にわたり研修を行った。(研修実績 期間H29年3月～H30年2月、研修回数43回、参加延べ人数 医師	3		

	します。	2 名 看護師 107 名 医療補助員 112 名 クラーク等 92 名 事務 1 名) 院内感染防止対策については、感染管理室・感染管理認定看護師が中心となり、研修会の実施や院内感染対策委員会の開催及び院内ラウンドの実施など、その必要性・重要性について院内に周知徹底を図った。 さらに、平成 29 年度から「感染管理システム」を導入し、特定の部署での薬剤耐性菌の検出やアウトブレイクの察知、職員の職業感染（針刺し事故）、ワクチン接種状況、感染症サーベイランスなど幅広い分野において一元管理が可能となり、精度の高い感染管理を実施することができた。																				
【関連指標】 <table><tr><td>項目</td><td>平成 28 年度 実績</td><td>平成 29 年度 実績</td></tr><tr><td>医療安全管理委員会開催回数</td><td>12 回</td><td>12 回</td></tr><tr><td>医療安全研修会等実施数</td><td>15 回</td><td>15 回</td></tr><tr><td>院内感染対策委員会開催回数</td><td>17 回</td><td>12 回</td></tr><tr><td>院内感染対策研修会等実施回数</td><td>8 回</td><td>11 回</td></tr><tr><td>院内ラウンド件数</td><td>週 1 回</td><td>週 1 回</td></tr></table>			項目	平成 28 年度 実績	平成 29 年度 実績	医療安全管理委員会開催回数	12 回	12 回	医療安全研修会等実施数	15 回	15 回	院内感染対策委員会開催回数	17 回	12 回	院内感染対策研修会等実施回数	8 回	11 回	院内ラウンド件数	週 1 回	週 1 回		
項目	平成 28 年度 実績	平成 29 年度 実績																				
医療安全管理委員会開催回数	12 回	12 回																				
医療安全研修会等実施数	15 回	15 回																				
院内感染対策委員会開催回数	17 回	12 回																				
院内感染対策研修会等実施回数	8 回	11 回																				
院内ラウンド件数	週 1 回	週 1 回																				

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

3 医療の安全性と信頼性の向上

(3) 市民への積極的な広報

中期目標	病院の役割や機能、経営状況などについて、市民にわかりやすく情報提供すること。
------	--

中期計画	年度計画	実績及び法人自己評価		評価委員会評価	
		取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
病院の理念・基本方針、各診療科の特色や治療実績、クリニカルインディケーター、財務諸表等の経営状況などについて、病院ウェブサイトや静岡病院広報紙などを通じて、市民にわかりやすく広報します。	病院の理念・基本方針、各診療科の特色や治療実績、クリニカルインディケーター、財務諸表等の経営状況などについて、病院ウェブサイトへ掲載し、随時更新を行うとともに、病院広報紙を院内各所へ設置するなど、市民にわかりやすく広報します。。また、より情報発信力の高いウェブサイトへと全面リニューアルを実施します。	患者、医療関係者、学生等、目的の異なる利用者に分かりやすく、アクセスしやすいものにするため、病院ウェブサイトの全面リニューアルに向けて取りくんだ。作成業者の選定については、10月の一次審査（書類審査など）、11月の二次審査（プレゼンテーションなど）を経て、11月24日に契約を締結、その後、業者及び院内の委員会などで協議し、平成30年4月からの稼動に向けて準備を進め、スマートフォンへの対応やメンテナンスの向上など、機能面・デザイン面など、多様化している近年のウェブサイトに沿った形にリニューアルすることができた。また、特に当院から広く周知したい診療等のお知らせについては、公的機関や診療所などに配布しやすいようリーフレットを作成するなど、市民にとってより身近な病院となるよう	3		

		様々なツールを用いた情報発信に努めた。			
【関連指標】					
項目		平成 28 年度実績	平成 29 年度実績		
静岡病院広報紙		6 回	6 回		
年報		1 回	1 回		

第 1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

4 利用しやすく快適な病院づくり

(1) 患者第一の病院づくり

中期目標	患者の立場を第一に考え、患者に寄り添った医療の実践に向け、医療サービスの提供や施設等の整備に当たっては、 患者の視点に立つて行うこと。
------	--

中期計画	年度計画	実績及び法人自己評価		評価委員会評価	
		取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
病院の基本方針として、患者にとって最善の全人的医療を実践する旨を掲げるとともに患者の権利を明示し、これらに基づいて患者の立場を常に意識しながら医療サービスの提供や病院施設等の整備を行います。	病院の基本方針として、患者にとって最善の全人的医療を実践する旨を掲げるとともに患者の権利を明示し、これらに基づいて患者の立場を常に意識しながら医療サービスの提供や病院施設等の整備を行います。	病院の基本理念・基本方針について、各所属・定例会議等での復唱、院内各所への掲示や全職員の名札への表示など、患者の立場を常に意識した医療の提供を心がけるよう職員へ周知を図るとともに、治療や入院など様々な不安を抱える患者ケアの充実をはかるため、患者相談室を増設（H29年11月改修）するなど、患者に寄り添った医療の実践に向けて取り組んだ。	3		

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

4 利用しやすく快適な病院づくり

(2) 患者ニーズに応じた医療・病院環境の提供

中期目標	提供する医療や病院環境に係る患者ニーズを把握して、そのニーズに対応し、患者にとって利用しやすく快適な病院づくりを進めること。
------	--

中期計画	年度計画	実績及び法人自己評価		評価委員会評価	
		取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
a 患者満足度調査などによって患者ニーズを把握し、そのニーズを満たすために必要な改善を行います。	a アンケート等により患者ニーズを把握し、院内施設等の改修や診療体制等の運用面の改善に努め、ハードとソフト両面から快適な環境を提供します。	例年実施している「患者満足度調査（H30年2月）」については、より実態に即した患者ニーズの把握に努めるため、アンケート項目及び内容の精査に取り組んだ。他病院のアンケート内容などを参考に、食事の味や提供時間、入退院時の説明、接遇に関する項目や、特に、ご指摘をいただく事が多い駐車場の利便性など、設備に関する項目（売店等の利便性、トイレ利用、待合室の環境、ベッド周辺アメニティーなど）の追加などを行った。成果指標である患者満足度については、今年度の目標値に届かなかったものの、アンケート内容等の改善により、当院の課題や弱点、その解決策などをより鮮明にし、次年度以降の取り組みに繋げることができた。さらに、院内に設置された提案箱による「患者からの意	2		
b 患者にとって利用しやすい病院環境を確保するため、待ち時間調査を実施し、待ち時間を短縮できる方策を検討するとともに、待ち時間をなるべく有意義に過ごしてもらえよう、診察待ちの患者さんに対し体操指導を	b 患者にとって利用しやすい病院環境を確保するため、待ち時間調査の実施及び対応策の検討等を行い、会計等の待ち時間の短縮につながる具体的な取組みを実施します。さらに、待ち時間をなるべく有意義に過ごしてもらえ				

行うなど、改善に向けた取り組みを実施します。 c 胆石摘出など短期間の入院が見込まれる患者が、入院治療をもっと身近に利用できるよう、患者が利用しやすい診療体制や運用方法等を管理する専門部署の設置について検討を進めます。 d 患者にとって快適な病院環境を確保するため、花や緑による緑化など、安らぎの空間を院内に整備します。 e 市民から信頼される病院であり続けるため、職員一人ひとりが患者の立場に立った接遇の実践ができるよう病院の全職員を対象とした接遇研修を毎年実施します。	るよう、診察待ちの患者さんに対し体操指導を行うなど、患者の利便性等の向上に努めます。 c 短期間の入院治療について、収益性、患者の利便性、ケアの必要性などを考慮し、外来診療からの切り替え等を含めて検討します。 d 花や緑のある安らぎの空間について、他の医療機関の状況や感染管理を考慮し、院内へ配置します。 e 市民から信頼される病院であり続けるため、職員一人ひとりが患者の立場に立った接遇の実践ができるよう病院の全職員を対象とした接遇研修を実施します。	見」については、患者の要望・指摘を真摯に受け止めるとともに、医師、看護師、事務職で構成されたメンバーによる検討会を毎月開催（H29 年 10 月～）するなど、改善に努めた。 治療及び検査における患者への丁寧な対応などの理由から、診察待ちの時間を短縮することは難しいものの、院外処方箋の受け渡し方法について、外来業務委員会（毎月開催）などで検討・協議を重ね、会計の待ち時間の短縮化、患者の待たされている感の解消など、患者の負担軽減を図ることができた。 デザインの専門学生の協力等により、外来スペースへの季節に応じたフラワーアレンジメントの提供や、行政機関、業者との連携によるメンテナンスフリー切り花の設置（院内33箇所）など、引き続き、患者が安らぐ空間を提供することができた。 病院全体の接遇能力の向上を図るため、正規職員、パート及び委託業者を含む全職員に対し、外部講師による接遇研修を実施した。（4日間全8回に分け実施 1,192名参加）			
--	--	---	--	--	--

【成果指標】

項目	平成 28 年度 実績	平成 29 年度 目標	平成 29 年度 実績
患者満足度調査結果（概ね満足 と回答した割合）	90.6%	90.0%以上の 維持	88.7%

【関連指標】

項目	平成 28 年度 実績	平成 29 年度 実績
医療相談件数	6,740 件	5,090 件
患者意見件数	179 件	203 件

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

5 市及び医療関係機関との連携、国内外医療関係機関との交流

(1) 市立病院としての市との連携

中期目標	市民が必要とする高度で良質な医療を安定的、継続的に提供するという公的使命を果たして行くため、市と連携して事業を進めること。
------	---

中期計画	年度計画	実績及び法人自己評価		評価委員会評価	
		取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
市と連携しながら、市目標に基づく計画の策定、計画の実行、市評価委員会による評価、評価に基づく改善などのPDCAサイクルによる経営管理を実践してまいります。	市と連携しながら、市目標に基づく計画の策定、計画の実行、市評価委員会による評価、評価に基づく改善などのPDCAサイクルによる経営管理を実践してまいります。	市が指示した法人が達成すべき目標に基づき、目標を達成するための中期計画及び年度計画を策定し、これに基づいて業務を遂行した。 また、法人移行後の初年度となる平成28年度の業務実績について、評価委員会（第1回～第3回 平成29年7月開催）へ出席し説明等を行うとともに、市からの評価結果報告を受け（平成29年8月）、評価の内容を法人の理事会及び院内会議等で周知した。さらに、評価結果報告の内容を踏まえ、患者ニーズの把握等について検討を重ね、患者からの意見について協議を行う多職種会議の発足、患者アンケート内容の精査など、必要な改善を図った。	3		

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

5 市及び医療関係機関との連携、国内外医療関係機関との交流

(2) 医療・保健・福祉・介護関係機関との連携

中期目標	患者の疾病状況に応じた的確な医療の提供に向け、静岡病院の高度急性期病院及び地域医療支援病院としての役割を踏まえながら、本市医療機関の連携・ネットワークの一員として、清水病院、他の医療機関、医師会と連携し、病病連携及び病診連携を推進するとともに、地域包括ケアシステムの構築に向け保健・福祉・介護関係機関と連携すること。
------	--

中期計画	年度計画	実績及び法人自己評価		評価委員会評価	
		取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
a 高度急性期病院及び地域医療支援病院としての静岡病院の役割を踏まえ、救急の対応や、「イーザーネット（疾病別病診連携システム）」の活用による診療所からの紹介患者の受け入れ、逆紹介などについて、他の医療機関や医師会と連携しながら取り組みます。	a 「イーザーネット」により疾患別に患者を登録し、きめ細やかな管理を行います。また、CT、MR等の画像情報を交換できる「イーザーイーザーネット」の活用により、更なる病診連携の推進を図ります。そして、各診療科において医師会の先生との病診連携勉強会を開催するなど、信頼関係の醸成に努めます。	病診連携を推進するため、引き続き、オープンシステム（開放型病院）、病診がんカンファレンス（年12回開催）などを開催した。さらに、「イーザーイーザーネット※」がシステム更新（平成30年4月）されることに伴い、地域の各診療所等の医療機関に当院の職員が直接出向き、設定等の必要な技術支援を実施するなど、地域の医療機関と顔の見える連携に取り組んだ。また、平成29年度から総合相談センター内に「入退院支援室」を設置し、更なる連携の推進に向けて組織体制についても改善を図った。結果、成果指標については、紹介率、逆紹介率ともに平成29年度の目標値を上回ることができ、さらに、紹介率については、前年度の実績と比較しても上	4		
b 他病院と互いに協力・補完しあい、疾患ご	b 他病院と互いに協力・補完しあい、疾患ご				

との連携の強化や、患者のその時々の病態にあった入院治療の効率的な提供など、病病連携の推進に努めるとともに、静岡市公的病院協議会における情報交換等により、他の市内公的病院との連携に取り組んでまいります。 c 地域包括ケアシステムの中で急性期医療を担い、退院後患者が住み慣れた地域で生活していくために、診療所、訪問看護ステーション、ケアマネジャー、在宅介護サービス事業者など多職種の関係者と連携を図ります。	との連携の強化や、患者のその時々の病態にあった入院治療の効率的な提供など、病病連携の推進に努めるとともに、静岡市公的病院協議会における情報交換等により、他の市内公的病院との連携に取り組んでまいります。 c 患者の在宅復帰等退院調整を強化し、在宅医療を受け持つ診療所、介護保険施設や療養型病院と情報を共有し連携を図るとともに市の保健・福祉・介護関係機関とも情報共有、連携を図ります。	回る結果となった。 他の公的病院との連携を推進するため、静岡市公的病院協議会の会議(病院長事務部局長合同会議 年2回、病院長定例会及び事務部局長連絡会 年9回、看護部長連絡会 年4回、医事課長連絡会 年3回)に出席し、情報共有等に努めた。 また、医師会、公的病院等に加え、静岡県、静岡市、消防、保健所などの行政機関も参加する会議(静岡地域医療構想調整会議 年4回、静岡県病院協会 年5回、静岡地域災害医療対策検討会 年4回)に出席し、相互の連携推進及び情報共有などを図った。 ※「イージーイーツーネット」 セキュリティレベルの高い専用ネットワークにより紹介状・診療情報などの電子データを医療機関同士で情報提供できる仕組み(イーツーネット医療連携協議会が運用)		
【成果指標】				
項目	平成28年度実績	平成29年度目標	平成29年度実績	
紹介率	74.4%	60.0%以上の維持	76.5%	
逆紹介率	107.1%	80.0%以上の維持	103.5%	

第 1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

5 市及び医療関係機関との連携、国内外医療関係機関との交流

(3) 国内外医療関係機関との交流

中期目標	医療の高度化、複雑化、ボーダーレス化に的確に対応するため、国内外の医療関係機関と交流し、情報交換等を行うこと。
------	---

中期計画	年度計画	実績及び法人自己評価		評価委員会評価	
		取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
学会等を通じて他の医療機関との連携を深め、また、国際協力機構（JICA）等を通じて視察団を受け入れるなど、海外医療機関とも積極的に交流します。	自治体病院学会等に参加し、他の医療機関との連携を推進するなど、国内外医療機関と交流します。	全国自治体病院学会 in 千葉（平成 29 年 10 月）に参加し、当院の職員による演題発表（16 演題）の実施や、全国地方独立行政法人病院協議会の会議（平成 29 年 10 月）への出席、近畿地区の地方独立行政法人の事務担当者が集まる情報交換会（平成 29 年 9 月）への参加など、近隣だけでなく市外・県外の医療機関との連携推進に積極的に取り組んだ。	3		

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

1 働きやすい職場環境と職員のやりがいづくり

(1) 働きやすい職場環境の整備

中期目標	職員のワーク・ライフ・バランスの推進、メンタルヘルスを含めた健康管理の実施、職場の安全衛生の確保などの職場環境の改善に努め、「働きやすい病院」にすること。
------	---

中期計画	年度計画	実績及び法人自己評価		評価委員会評価	
		取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
職員のワーク・ライフ・バランスに配慮した多様な雇用形態・勤務形態の導入や、職員ニーズを踏まえた職場環境づくりを行い、院内保育所の運営、健康管理、労働安全衛生を確保するなど「働きやすい病院」にしています。	働きやすく休みやすいワーク・ライフ・バランスの充実の実現に向け、多様な価値観や家庭環境に柔軟に対応できる雇用形態・勤務形態を整備し、利用促進に努めます。 また、職員の意見、要望をよりの確に把握するための職員意識調査、ストレスチェックを導入し、それに基づいた就労環境の向上策を検討・実施します。	法人移行のメリットを生かし、医師の負担軽減に効果が期待できる柔軟な勤務体制の整備に取り組んだ。モデルとなる診療科を選定し、各診療科毎に適切な勤務シフトを検討するため、診療科長と事務担当者による綿密な打ち合わせを実施するとともに、定期的なプロジェクト会議の開催による情報共有及びフィードバックを繰り返し、夜勤等を考慮した変形労働時間制を試行することができた。また、試行後は事務担当者によるモニタリングを継続して行い、毎日の勤務時間実績の各診療科長への報告や、随時、打ち合わせを実施するなど、働きやすく休みやすい勤務形態の整備に向け、病院全体で真剣に取り組む組織風土の	4		

		醸成を図ることができた。 また、院内暴力等への対応強化を目的として、警察OBの職員が講師となり「暴力暴言等対策研修」の実施（平成 30 年 3 月）や、ハラスメントの防止に向けた取り組みとして、院内各部に配置予定の「相談員」を養成するための研修を実施した。（平成 30 年 3 月） さらに、精神科医による職員向けのメンタルケアに関する院内情報紙の配付や、全職員（正規職員、臨時職員）対象のストレスチェックを実施（平成 29 年 9 月）するなど、職員の心理的な負担の程度を把握し、セルフケアや、職場環境の改善に努めた。									
【関連指標】 <table><tr><td>項目</td><td>平成 28 年度 実績</td><td>平成 29 年度 実績</td></tr><tr><td>院内保育所の受入人数</td><td>25 人</td><td>33 人</td></tr></table>				項目	平成 28 年度 実績	平成 29 年度 実績	院内保育所の受入人数	25 人	33 人		
項目	平成 28 年度 実績	平成 29 年度 実績									
院内保育所の受入人数	25 人	33 人									

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

1 働きやすい職場環境と職員のやりがいづくり

(2) 職員のやりがいと満足度の向上

中期目標	職員の成長やチャレンジを尊重するため、職員自身の能力開発や技術向上の取組を促進するとともに、職員の職責、勤務成績等を適正に評価する人事給与制度の設定、職員相互で認め合うコミュニケーションの活性化等により、職員の意欲を引き出し、満足度を向上させること。
------	---

中期計画	年度計画	実績及び法人自己評価		評価委員会評価	
		取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
a 職員自身の能力開発や技術向上の取組を促進させるため、院内研修の充実や、職員の研修会等への参加支援を行います。また、職員の職責、勤務成績等を適正に評価する人事給与制度の構築、院内外が多職種が参加する研究発表会等による職員相互のコミュニケーションの活性化などを行うとともに、定期的に職員意識調査を行い、	a 職員自身の能力開発や技術向上の取組を促進させるため、院内研修の充実や、職員の研修会等への参加支援を行います。また、職員の職責、勤務成績等を適正に評価する人事給与制度や表彰制度を構築するとともに、「医療学術集談会」や「看護研究発表」、「全国自治体病院協議会」での事例発表等による職員の意欲の向上や職員相互のコミュニケーションの活性化等を行います。そして、	各職種で研修や勉強会を実施し、専門職として技術の向上に努めた。資格取得に必要な費用を法人が負担し、平成29年度の実績で、新たに看護師2名が認定看護師となり、資格取得者に対する処遇改善等も実施した。（平成29年7月認定） また、法人職員の人事評価制度については、事務職を対象に試行的に運用可能な体制を整えるなど、制度の本格稼働に向けて取り組みを開始した。 異なる職種同士のコミュニケーションの向上を図ることを目的に、多職種連携推進会議の開催（年6回）や、院外の外部施設で行う多職種合同の新職員研修を実施した。（平成29年4月第2	3		

職員の意欲を引き出し、満足度を向上させます。	職員意識調査を行い、その結果を踏まえた対策を検討・実施します。	回テルモメディカルプラネックス研修新職員 87 名) また、看護研究発表大会（平成 29 年 9 月 参加者 314 名）、医療学術集談会（平成 29 年 12 月 参加者約 89 名）、クオリティマネジメント報告会（平成 30 年 2 月～3 月 参加者 83 名）などの事例発表会を開催し、職員相互のコミュニケーションの活性化を図った。引き続き、看護職において職員満足度調査を実施した。（11 月実施）												
b 職員の経営参画意識を高め、よりよい病院づくりに向けた取り組みを推進するため、病院の運営方針や課題についての職員間での情報共有や課題改善を検討するための会議を開催するとともに、課題改善の奨励に取り組めます。	b 職員の経営参画意識を高め、よりよい病院づくりに向けた取り組みを推進するため、病院の運営方針や課題についての職員間での情報共有や課題改善を検討するための会議を開催するとともに、課題改善の奨励に取り組めます。	診療部、看護部、医療支援部、薬剤部、事業管理部、経営管理部の各所属において、職員間の情報共有及び課題を検討するための会議を開催した（月 1 回）。さらに、多職種の幹部が合同で病院全体の運営方針などについて情報共有及び課題等を検討するため、病院運営会議（月 1 回）、病院幹部会議（月 2 回）、病院部門連絡会（月 1 回）を開催した。												
【関連指標】														
<table><tr><td>項目</td><td>平成 28 年度 実績</td><td>平成 29 年度 実績</td></tr><tr><td>看護研究発表事例件数</td><td>15 件</td><td>16 件</td></tr><tr><td>全国自治体病院協議会事例発表件数</td><td>5 件</td><td>16 件</td></tr></table>			項目	平成 28 年度 実績	平成 29 年度 実績	看護研究発表事例件数	15 件	16 件	全国自治体病院協議会事例発表件数	5 件	16 件			
項目	平成 28 年度 実績	平成 29 年度 実績												
看護研究発表事例件数	15 件	16 件												
全国自治体病院協議会事例発表件数	5 件	16 件												

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

2 業務運営体制の構築

(1) 医療環境の変化に迅速・柔軟に対応できる体制の構築

中期目標	医療環境の変化に的確に対応して目標を着実に達成するため、法人が主体性をもって迅速に意思決定、行動ができるよう、理事長及び理事会を中心とした効率的で効果的な組織体制を構築すること。
------	---

中期計画	年度計画	実績及び法人自己評価		評価委員会評価	
		取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
理事長のリーダーシップと、理事会を組織することにより、迅速で明快なプロセスによる意思決定を行います。 また、組織体制の構築に当たっては、必要十分でかつ無駄のない組織体制とするとともに、戦略的な病院経営を企画・立案する機能を強化するための新たな部署を設置するなど、効率的で効果的な組織体制とします。	医療環境の変化や患者の動向を迅速かつ的確に把握・分析し、効果的な対応がいつでもとれるよう組織体制を弾力的に改組します。 患者への医療サービス体制等の情報提供や、入退院の支援、がん相談支援などを行うため、総合相談センターを設置します。 また、重要施策に係る調査や意思決定するための総合調整を行うなど、迅速な意思決定を行うため、総務課に総合企画係	多職種合同の経営改善プロジェクトを中心に、引き続き、病院全体で収支改善に向けた取り組みを行った。DPC制度に関する勉強会を院内で開催し、3日間で392人が参加（平成29年9月開催）となった。さらに、総合入院体制加算、入退院支援など、テーマ毎に作業部会を開催し、診療報酬上の加算取得に向けて検討及び協議を行った。 組織体制を弾力的に改組し、平成29年4月、新たに「総合相談センター」、「がん相談支援センター」、「総合企画係（総務課）」を設置した。従来、地域医療支援室で行っていた病診連携、医療相談とともに、入退院支援を加え、総合相談センターとして一体化しスムーズな入院受入れや早期からの退院支援などを行った。さら	3		

そして、組織体制は、医療環境の変化に応じて、弾力的に改組します。	を設置し、病院全体の調整機能を強化します。	に、従来より実施していたがん相談については、専門的な窓口として院内組織にがん相談支援センターとして位置づけた。また、将来の医療需要の変化に伴う当院の将来像（方向性など）を示す計画の策定や、緊急時（災害など）に事業の継続・復旧を図る計画の策定に際し、総合企画係が中心となり院内各部署との調整等を行った。			
---	------------------------------	---	--	--	--

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

2 業務運営体制の構築

(2) 市民との連携・協働による病院運営の実施

中期目標	市民の安心・安全を支える地域医療を存続させるためには、医療機関と市民との連携・協働が必要であり、静岡病院の運営においても市民との連携・協働を推進すること。
------	---

中期計画	年度計画	実績及び法人自己評価		評価委員会評価	
		取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
地元自治会等と共同開催による市民公開講座の実施や、院内の患者誘導、移送等に係る市民ボランティアとの協働を進めるとともに、院内コンサートの実施等について、市民の協力を得た病院運営を行います。	地元自治会等と共同して市民公開講座等を開催します。 また、静岡病院での患者誘導、移送等に係る市民ボランティアを支援するため、ボランティア支援委員会を開催し、市民ボランティアとの協働を進めます。 そして、院内において市内の学生によるミニコンサート・フラワーアレンジメントなどを実施し、患者さんに心地よい環境を提供します。	自治会連合会（梅ヶ島地区、井川地区、清沢地区）と連携し、引き続き、中山間地域で「静岡市民『からだ』の学校」を開催した。（平成29年8月～9月）また、ボランティアを募集し、患者さんの誘導、移送（車椅子）、外来案内、精算機の説明、巡回図書、衛生材料づくりなど、院内の様々な活動に従事していただくとともに、優れた活動実績のボランティアを表彰するなど（平成29年度表彰者3名）、ボランティアとの協働による病院運営に取り組んだ。さらに、近隣の学校の吹奏楽部によるクリスマスコンサート、デザイン専門学生によるフラワーアレンジメント展示（平成29年度実績6回）など、引き続き、学生ボランティアとの連携による事業を実施した。	3		

【関連指標】 <table> <tr> <th>項目</th><th>平成 28 年度 実績</th><th>平成 29 年度 実績</th></tr> <tr> <td>地元自治会等との共催事業</td><td>3 回</td><td>3 回</td></tr> <tr> <td>ボランティア活動延べ人数</td><td>517 人</td><td>515 人</td></tr> <tr> <td>院内コンサート</td><td>1 回</td><td>1 回</td></tr> </table>			項目	平成 28 年度 実績	平成 29 年度 実績	地元自治会等との共催事業	3 回	3 回	ボランティア活動延べ人数	517 人	515 人	院内コンサート	1 回	1 回
項目	平成 28 年度 実績	平成 29 年度 実績												
地元自治会等との共催事業	3 回	3 回												
ボランティア活動延べ人数	517 人	515 人												
院内コンサート	1 回	1 回												
1														

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

2 業務運営体制の構築

(3) 外部評価等の活用

中期目標	病院の運営管理や提供している医療等の情報について外部に公表するとともに、第三者の客観的な立場からの評価を受け、病院の運営体制の充実や医療の質の向上を図ること。
------	---

中期計画	年度計画	実績及び法人自己評価		評価委員会評価	
		取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
病院の運営管理や提供している医療、臨床研修プログラムについては、「病院機能評価」や「臨床研修評価」を受審し、適正な病院経営・会計執行等については、監事による監査等を実施するなど、客観的な立場からの評価等を受けます。 また、医療の質の向上に係る院外での研修受講の推進や品質管理等の民間のスキルやノウハウを活	「病院機能評価」を受審し、継続して認定病院となり、地域に根ざし、信頼と納得の得られる医療サービスを提供するとともに、「臨床研修評価」を受審し、継続して認定病院となり、第三者評価による研修プログラムの保証、臨床研修病院の質の改善・向上を促進し、よりよい医療を提供します。 また、業務の実施状況、資産の取得管理、財務諸表等について「監事監査」を実施し、適正な病院経営、会計経理の執行に努めま	市民から信頼と納得の得られる医療サービスを提供すべく、日常的に努力している病院として、当院は日本医療機能評価機構からの認定(平成25年11月)を受けており、認定更新を来年度(平成30年11月期限)に控え、受審に向けて本格的な活動を開始した。具体的には、医師、看護師など全職種で構成されるプロジェクトメンバーを選定し、各部に分かれて医療の質改善に向けた検討会議を繰り返し行った。さらに、各部合同連絡会や委員会の開催(H29年度実績3回)、病院機能評価セミナーへの参加(7月、1月)など、病院全体で認定更新に向けて取り組むことができた。 監事監査計画により、監事等の定期監査及び決算監査を受け、法令等に基づ	3		

かす方策の検討などにより、病院体制の充実や適切な病院経営に努めます。	す。 そして、医療の質の向上に係る院外での研修受講の推進や品質管理等の民間のスキルやノウハウを活かす方策の検討などにより、病院体制の充実等に努めます。	き、適正に業務を執行するとともに、平成 29 年 9 月から開始した顧問会計士との定例会（月 1 回）により、財務状況の報告や会計処理等について指導・助言を受けるなど、法人の会計業務等の適正性の確保に努めた。さらに、病院運営に対する患者からの意見・要望等を真摯に受け止め迅速に対応するため、院内各所に設置された提案箱の内容（平成 29 年度実績 203 件）について、運営会議等で報告し情報共有を図るとともに、外来フロアにて掲示を行うなど適切に対応した。 医療コンサルタント（外部アドバイザー）から経営改善に向けた指導等を受け（平成 29 年度実績 12 回開催）、民間のスキルやノウハウなどを生かした経営改善に取り組んだ。			
---	---	--	--	--	--

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

2 業務運営体制の構築

(4) 事務部門の強化

中期目標	業務執行能力の高い組織を確立するとともに、医療経営や医療事務に係る専門的知識や使命感を持った人材の確保・育成を計画的に行うこと。
------	--

中期計画	年度計画	実績及び法人自己評価		評価委員会評価	
		取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
業務執行能力の高い組織を確立するとともに、医療経営や医療事務に係る専門的知識や使命感を持った人材の採用や育成を計画的に実施します。	事務職員のプロパー化を推し進め、能率的な医療経営の推進を図ります。	事務職員については、医療機関での医療事務経験等が豊富な人材を中心に採用するなど、法人移行の初年度からプロパー化を進めており、移行2年目となる今年度についても、専門知識等を有するプロパー職員を配置した。今年度は医療を取り巻く喫緊の課題に迅速に対応すべく、即戦力として働けるよう新たに配置した職員全てを実務経験者とし、人事、契約、地域医療、医療安全、教育研修等の部署に8名を配置した。 また、次年度（H30年度）の人員配置については、他の医療機関での経験者等の採用により、市からの派遣職員との切り替えを進め、成果指標の目標値を達成することができた。	3		

【成果指標】

項目	平成 28 年度 実績	平成 29 年度 目標	平成 29 年度 実績
派遣職員から法人職員への切り 替え率（事務職）	22.5%	50%	50%

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

2 業務運営体制の構築

(5) 法令の遵守等

中期目標	市立病院としての公的使命を適切に果たすため、医療法等の関係法令を遵守し、高い倫理観のもと、適正な病院運営を行うこと。
------	--

中期計画	年度計画	実績及び法人自己評価		評価委員会評価	
		取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
医療法や、健康保険法に基づく療養担当規則等の関係法令の遵守及び倫理意識の向上に関する研修等を職員に実施して、適正な病院運営を図ります。	医療法をはじめとする国の法令や関係規程、法人が定める倫理方針や各種規程等を遵守し、職員に対し定期的な意識啓発を実施します。	保険医療機関として当院が遵守する必要がある事項等について、東海北陸厚生局（適時調査 平成29年12月、平成30年2月）や、保健所（立ち入り検査）による調査等への対応を通じて、医師、看護師、事務などの全職種に対し、医療法をはじめとする関係法令の遵守等について周知徹底を図るとともに、法改正などに伴う各規程の制定・改定を行った。（改定及び制定した規程の件数 12件 理事会審議分のみ）	3		

第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

1 健全経営の維持

(1) 安定的な経営の維持

中期目標	静岡病院が地域医療の核として、市民が必要とする高度で良質な医療サービスを継続して提供していくために、中期目標期間を通じて、経常収支を均衡させ、安定的な経営を維持すること。
------	---

中期計画	年度計画	実績及び法人自己評価		評価委員会評価	
		取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
医療環境の変化に的確に対応しながら、収入の確保及び費用の節減を図り、市からの運営費負担金等の繰入後の経常収支を均衡させ、安定的な経営を維持します。	医療環境の変化に的確に対応しながら、収入の確保及び支出の無駄を省き、市からの運営費負担金等の繰入後の経常収支を均衡させ、安定的な経営を維持します。	安定的な経営を維持するため、引き続き、経営改善プロジェクトなどの収入確保策に取り組むとともに、材料費など費用の節減に努めた。収入については、新たな施設基準を取得するなど、診療単価の上昇を図り、収入を増加することができた。また、費用については、医薬品及び診療材料の値引き交渉の強化に努め、値引率の改善を図ることができた。しかし、診療体制の維持に必要な医療職の確保に伴う人員の増や、労働基準監督署の指導に基づく手当の執行など、昨年度に比べ人件費が増加となり、さらに、PET/CTなど高度医療機器の取得による減価償却費の増なども重なり、結果的に平成29年度の収支は黒字を達成することができなかった。	2		

【成果指標】

項目	平成 28 年度 実績	平成 29 年度 目標	平成 29 年度 実績
総収支比率	102.2%	100.0%	%
経常収支比率	101.4%	100.0%	%
医業収支比率	97.4%	95.0%以上	%

第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

1 健全経営の維持

(2) 収入の確保、費用の節減

中期目標	経常収支の均衡のため、収入の確保及び費用の節減について、全ての職員がこのことを意識して日頃から取り組むとともに、診療報酬改定への的確な対応や地方独立行政法人のメリットを生かした多様な契約手法の導入による調達コストの削減など、様々な機会を通じて取り組むこと。
------	---

中期計画	年度計画	実績及び法人自己評価		評価委員会評価	
		取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
a 収入の確保のため、以下の項目を実施します。 ア 収入の確保に向けた全職員対象の研修会等を実施 イ 診療報酬改定への的確な対応 ウ 人口減少社会における患者の安定的な確保 エ 査定状況等の傾向分析に基づく診療報酬の請求漏れや査定減防止策の関係者への周知	収入の安定的確保のため、以下の項目を実施します。 ア 収入の確保に向けた全職員対象の研修会等を実施 イ 診療報酬改定への的確な対応 ウ 人口減少社会における患者の安定的な確保 エ 査定状況等の傾向分析に基づく診療報酬の請求漏れや査定減防止策の関係者への周知 オ 未収金の圧縮（電話催告、「医療相談窓口」等相談	〔収入の確保〕 ア 他病院での成功事例について、院内職員向けに経営改善特別講演会（第1回平成29年4月開催 参加者149名、第2回平成29年7月開催 参加者157名）を実施した。 イ 引き続き、経営改善プロジェクトによる取り組みを継続し、増額となる施設基準の新規届出や算定率の向上を実現し、また、救急による重症患者受け入れの推進に努めるなど、入院単価は〇〇,〇〇〇円と前年度に比べ〇,〇〇〇円増となった。 〈新たに取得した施設基準など〉 ・透析液水質確保加算2（H30.2） ・腹腔鏡下肝切除術4～6（H30.2）	3		

オ 未収金の圧縮 (電話催告、外来面談等) b 費用の節減のため、以下の項目を実施します。 ア 後発医薬品の積極的な採用 イ 診療材料や医薬品について、市場調査に基づく価格交渉の実施や在庫管理の徹底 ウ 契約手法の多様化(長期契約、包括的一括契約等) エ 費用節減について会議等による全職員への周知・浸透	窓口の周知や職員による支払相談の充実強化) b 費用の節減のため、以下の項目を実施します。 ア 後発医薬品の積極的な採用 イ 診療材料や医薬品について、市場調査に基づく価格交渉の実施や在庫管理の徹底 ウ 多様化する契約手法を最大限活用 エ 費用節減について、会議等による職員への周知・浸透	・腹腔鏡腎悪性腫瘍手術(H30.2) ・保健医療機関の連携による病理診断(H29.11) ・口腔病理診断管理加算(H30.1) ・総合入院体制加算2(H30.3) また、検診事業の充実を図り、婦人科検診として、新たに「子宮体がん・子宮頸がん検診、HPV 検査」を開始し(H29年4月)、新たな収入の確保(H29年度実績116件)に努めた。 ウ 医療機関との顔の見える連携や、医師会との連携推進による紹介率・逆紹介率の向上、救急患者の受け入れを強化するなど、患者の確保に向けて様々な取り組みを行った。しかしながら、入院患者数は162,928人で前年度に比べ2,908人減となり、病床利用率は89.3%と目標値には届かなかった。外来患者数は277,006人となり前年度に比べ5,207人減となった。 エ 査定状況などの分析・報告を行うため、保険診療対策委員会を毎月開催した。高額査定された内容を検証し、具体的な請求方法の指示や、再審査請求を推進するなど、査定減対策などの強化に努めた。 オ 未収金の圧縮に向けた取り組みとし			
--	--	--	--	--	--

		ては、職員による納付相談・催告に加え、債権回収専門業者への徴収業務委託などを実施した。平成 29 年度の収納率（現年度分）は 98.1%となり、目標値を上回ることができた。 〔費用の節減〕 ア 後発医薬品の切り替えについては、引き続き、薬剤委員会において積極的に切り替えを進め、後発医薬品指数の平成 29 年度実績は 85.6%となり、目標値を上回ることができた。 イ 薬品費の抑制を図るため、市場調査の価格に基づく薬価交渉を実施した。契約した民間業者をアドバイザーとして同席させ、主な医薬品ディーラー5社と交渉を行った（H29 年度交渉回数 12 回）。アドバイザー同席のもと薬価交渉を有利に進め、平成 29 年度の値引率は 16.1%で、前年度の 15.1%を上回る結果となった。さらに、平成 29 年度から診療材料費についても、薬品同様、値引き交渉（H29 年度交渉回数 2 回）の際にアドバイザーを同席させるなど、診療材料費の抑制に努めた。 ウ 委託契約の際には、業者の選定、契約内容、積算方法などについて、幹部メンバーなどによる審議を行った（検討会			
--	--	--	--	--	--

		議 19 回開催、審議件数 84 件）。 エ 月別の収支状況について、運営会議、幹部会議、部門連絡会などを通じて周知を図った。			
【成果指標】					
項目	平成 28 年度実績	平成 29 年度目標	平成 29 年度実績		
病床利用率	90.9%	95.0%以上	89.3%		
収納率（現年度分）	98.1%	98.0%以上	%		
【関連指標】					
項目	平成 28 年度実績	平成 29 年度実績			
入院患者数	165,836 人	162,928 人			
外来患者数	282,213 人	277,006 人			
手術件数	5,422 件	5,055 件			
平均在院日数	12.1 日	12.2 日			
【成果指標】					
項目	平成 28 年度実績	平成 29 年度目標	平成 29 年度実績		
後発医薬品指数	83.9%	70.0%	85.6%		
【関連指標】					
項目	平成 28 年度実績	平成 29 年度実績			
給与費比率	47.5%	%			
材料費比率	31.0%	%			
経費比率	16.7%	%			

第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

1 健全経営の維持

(3) 計画的な投資の実施

中期目標	医療機器や設備の整備・更新などの投資を行う際には、その投資効果を把握し、投資後の収支の見通しを立て、アセットマネジメント（資産管理）の観点も踏まえて計画的に行うこと。
------	---

中期計画	年度計画	実績及び法人自己評価		評価委員会評価	
		取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
医療機器の稼働状況や耐用年数、新たな医療機器の開発状況、他の医療機関における機器の整備状況などを踏まえ、投資効果や投資後の収支見通しやアセットマネジメント（資産管理）等を勘案し、主要医療機器の整備計画や、施設の整備・修繕計画を策定して投資します。	主要医療機器の整備計画や施設の整備・修繕計画を踏まえて投資します。	医療機器の購入については、各診療科・部門から提出された整備計画（H28～H32）に基づき、購入時に再度、診療での必要性、経済性などを精査し、平成29年度は221台購入した。 施設整備については、築30年を経過した西館を中心に、計画に基づいた修繕を実施した。また、アメニティの向上などを図るため、西館4階病棟（産婦人科）改修工事（H30年度施工）の準備を進め、平成29年度は実施設計業務が完了した。	3		

【関連指標】

項目	平成 28 年度 実績	平成 29 年度 実績
減価償却費比率	7.2%	%

第4 その他業務運営に関する重要事項に係る目標を達成するためとるべき措置

1 地球環境に配慮した病院運営

中期目標	病院は、24 時間稼働し、また、電力を消費する医療機器やディスプレイ（使い捨て）材料を使用する等の特徴があるため、省資源・省エネルギー、廃棄物の減量、温室効果ガスの排出抑制など、地球温暖化対策の推進と資源の有効活用に取り組み、地球環境に配慮した病院運営を行うこと。
------	--

中期計画	年度計画	実績及び法人自己評価		評価委員会評価	
		取組、成果、課題、評価理由等	評価	評価	評価理由・特記事項等
環境負荷の少ない機器の購入、廃棄物の分別徹底、リサイクル推進による廃棄物の減量、ディスプレイ材料の見直し、地下水利用による水道使用量の削減、高効率機器の導入、機器の効率的な運転管理の実施等により、地球環境に配慮した病院運営を行います。	環境負荷の少ない機器の購入、廃棄物の分別徹底、リサイクル推進による廃棄物の減量、ディスプレイ材料の見直し、地下水利用による水道使用量の削減、高効率機器の導入、機器の効率的な運転管理の実施等により、地球環境に配慮した病院運営を行います。	環境負荷の少ないLED 照明への取り換えを順次行い、可能な範囲での照明の消灯、間引きを実施し、電力消費量やCO2 排出量の削減に努めた。 【平成 29 年度実績 LED 照明器具取替え実施箇所】（西館全病棟の汚物室・ごみ庫・リネン室、血液浄化センター） また、平成 29 年度から取り入れた「5S 活動※」をきっかけに、リサイクルの推進に向けた取り組みを行った。具体的には、「5 S 活動」の一環として実施した多職種での院内巡視に伴い、今までの業務を再点検することで課題等を発見し改善活動に取り組んだ。院内の古紙・雑紙のうち、従来、焼却物として処理されていたものについて、回収・分別方法等が煩雑にならない	4		

		よう業者と協議を重ね、新たにリサイクルをすることで、焼却物の量を減少させることができた。結果、コストの削減及びリサイクル料としての収入も増加し、できるだけ環境負荷の少ない病院運営を行いながら、経営改善としても効果がある取り組みを実施した。 ※5 S 活動 仕事に必要なモノだけに絞り、整理・整頓することによって、職場の抱える課題の解決や、仕事の質及びチーム力を向上させるための改善活動。														
【関連指標】 <table><tr><td>項目</td><td>平成 28 年度 実績</td><td>平成 29 年度 実績</td></tr><tr><td>電気使用量</td><td>10,701,456KWH</td><td>10,591,290KWH</td></tr><tr><td>ガス使用量</td><td>1,315,030 m³</td><td>1,342,235 m³</td></tr><tr><td>水道使用量</td><td>97,333 m³</td><td>99,374 m³</td></tr></table>			項目	平成 28 年度 実績	平成 29 年度 実績	電気使用量	10,701,456KWH	10,591,290KWH	ガス使用量	1,315,030 m ³	1,342,235 m ³	水道使用量	97,333 m ³	99,374 m ³		
項目	平成 28 年度 実績	平成 29 年度 実績														
電気使用量	10,701,456KWH	10,591,290KWH														
ガス使用量	1,315,030 m ³	1,342,235 m ³														
水道使用量	97,333 m ³	99,374 m ³														

第5 予算、収支計画及び資金計画

※ 財務諸表及び決算報告書を参照

第6 その他市の規則で定める業務運営に関する事項

中期計画			年度計画			実績		
(単位：百万円)			(単位：百万円)			(単位：百万円)		
施設及び 設備の内容	予定額	財源	施設及び 設備の内容	予定額	財源	施設及び 設備の内容	実績額	財源
施設、医療 機器等整備	2,947	静岡市長期 借入金等	施設、医療 機器等整備	825	静岡市長期 借入金等	施設、医療 機器等整備	614	静岡市長期 借入金等